

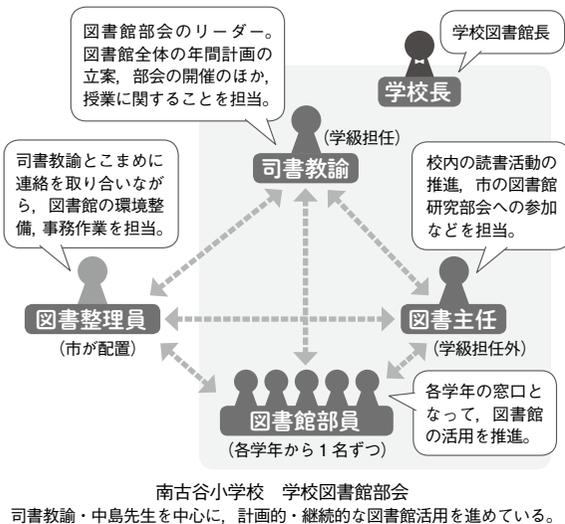
学校図書館の運営のしかた

学校図書館の運営方法について、埼玉県川越市立南古谷小学校の取り組みをご紹介します。同校で司書教諭を務める中島晶子先生にお伺いしました。



▲南古谷小学校の学校図書館。「ゆめのくに」という愛称で子どもたちに親しまれている。

「南古谷小学校では、先生方がどのように連携されて、学校図書館の運営にあたっているのでしょうか。」



本校は、上記のような学校図書館部会を組織し、司書教諭を中心に運営を進めています。主な業務は、司書教諭のほか、図書整理員（いわゆる学校司書）と、図書主任とで分担しています。学校全体で図書館の活用を推進するために、さらに、各学年の学級担任から一名ずつ図書部員も任命しています。図書館部会の定例会は、年に三回（学期に一回）程度ですが、新しい図書を購入するときや、読書感想文の審査などのために、臨時で部会を開催することもあります。

具体的には、校内で次のような連携をとっています。
例：新しい図書を購入する場合
図書部員：学年で購入したい図書の要望を出す。

司書教諭：学習内容と照らし合わせ、不足している本があれば提案して加える。また、図書館全体のバランス（同じジャンルに偏っていないか）なども考慮する。

図書整理員：蔵書を確認しながら、図書購入リストを作成する。

司書教諭・図書整理員：書店に一緒に行き、図書を購入する。

公共図書館は、幅広いニーズに応えることを役割としていますが、学校図書館は学校教育に寄りしなければなりません。ですから司書教諭として、常にそのことを念頭に置き、学校図書館の運営にあたっていきます。

「中島先生は六年生の学級担任も受け持ちながら、司書教諭としての時間をどのように過ごしているのでしょうか。」

司書教諭としての業務を遂行するための時間を、週あたり15時間程度つくっていただいています。書写などの授業を他の先生に受け持ってもらおうなどの調整をして、時間を捻出しています。この15時間を使って、他の学年の授業を支援したり、図書館の整備をしたりしています。

「子どもたちの学びを支えるために、学校図書館の中で工夫されていることは何でしょうか。」

「読書」のための支援と、「調べ学習」の



▲※1 低学年児童にお薦めの本がすぐに分かるように、配架を工夫。



▲※2 3年生の教室近くの特設コーナー。物語文を学習するにあたり、「登場人物の心情の変化が分かる本」を子どもたちに読ませたいという学年の先生からのリクエストに応えたもの。

ための支援を考えています。

「読書」のための支援

- 読みたい本を、子ども自身が見つけられるよう、配架を工夫（※1）。
- いろいろなジャンルの本に興味をもつよう、各学年推奨図書「ゆめのくに」25選「わくわく20選」を選定。それらの本の背にシールを貼り、すぐに分かるようにしておく。これを一年かけて読めるよう、学級担任を通して子どもたちに指導する。
- 並行読書を推進するために、教室の近くに特設コーナーを設置（※2）。学年ごとに、授業の内容や校外学習などに関連した内容の本を、時期に合わせて複数提示する。

「調べ学習」のための支援

- 必要な本を自分で探せる子どもを育てるために、年度初めに「学びのスキル年間計画表（各学年において、学校図書館で身につけたい力を一覧にしたもの）」を作成し、全学級担任と共有する。
- 調べ学習のスキルを身につけられるよう、図書館の使い方や、国語辞典・百科事典の使い方、NDC（日本十進分類法）などの指導にあたる。これらの授業は、学校図書館の中で司書教諭が行い、学級担任はT2として、さらに図書整理員にも授業支援に入ってもらおう。（次ページ「学校図書館を活用した授業」事例1参照）

南古谷小学校は、学校図書館の整備・充実に努めるだけでなく、学校全体で、読書活動に力を入れています。朝の読書タイム（毎週月曜日）、ボランティアの保護者による読み聞かせ、「読書マラソン（30冊でゴール）」、学級内で一冊の本を回し読みする「読書リレー」など、本に触れる機会を多数設けています。

「子どもの興味・関心は一人一人異なります。それぞれの子どもの好みや発達状況をいちばん理解しているのは担任の先生です。選書に迷っている子どもがいたら、担任の先生の出番なんですよ」とおっしゃる中島先生。司書教諭として、学校図書館の運営に精力的に取り組みながら、それぞれの役割を生かすことを常に心がけているようでした。